

イベントレポート 『2009 K耐久東海シリーズ 選抜戦』 6時間耐久

開催日 2009年12月6日(日)

10:00 決勝スタート 16:00 チェッカー

天候 晴れ

最高気温 13.2 (13時)

場所 スパ西浦モーターパーク

エントリー台数 31台

2009年12月6日(日)愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークにおいて、2009K耐久/GT耐久東海シリーズの最終戦となる選抜戦が行われた。

ここ数日天候がめまぐるしく変わり、前日は強い雨に見舞われた東海地区だが、イベント当日は朝から快晴となり絶好のレース日和となった。

今回の選抜戦は第4戦までのシリーズポイント上位チームから優先的に出場権が得られるもので、軽自動車と普通車が混走となる。シーズンを通して激しい戦いを繰り広げてきた猛者31台が、選抜戦の名にふさわしい熱い戦いを繰り広げた。



KNCクラス(軽NAのクローズドクラス)

毎回最多エントリーとなるこのクラス。今回の選抜戦でも7台の最多エントリーとなった。激戦のクラスだけあってポイント差も僅差。シリーズ優勝争いは上位3チームに絞られているが、その争いを制するのは果たしてどのチームか。

予選

予選1位となったのは開幕戦で優勝して以来の参加となったNo.127「ミドリネコマルトゥデイ」でタイムは1'07.473。

トップから遅れることわずか0.07秒の2位は、第2戦の覇者No.48「SHINWAサトー建材BEAT」。1'07.544で互角の戦いを見せる。

3位には第3戦の覇者でシリーズ1位に付けるNo.10「ぼんこつRTトゥデイ」が1'08.368のタイムで入り、上位3台がこれまでの優勝チームで占められる形となる。

それに次いだのはNo.22「CRAZZY today - 」で1'08.815をマーク。このチームは第3戦だけの参戦だが、その時は2位とやはり上位の成績を収めている。

5番手にはシリーズ3位のNo.38「デモリッション・エグゼ・トゥデイ」が1'09.109で、6番手にはシリーズ2位のNo.36「JKレーシング ユーロトゥデイ」が1'10.176で付けるが、上位との差はわずか。逆転チャンプを狙うには十分な位置に。

また予選7番手のNo.100「HACもらいものビート」もタイムは1'10.765と、クラス内のタイム差が非常に詰まった予選となった。



序盤

スタートから30分。1回目のピットインを前にして早くも混戦の様相。予選6番手からスタートのNo.36「JKレーシング ユーロトゥデイ」がこのクラスのトップに躍り出る。しかしその後ろ、わずか15秒ほどの間にNo.10「ぼんこつRTトゥデイ」、No.48「SHINWAサトー建材BEAT」、No.127「ミドリネコマルトゥデイ」、No.38「デモリッション・エグゼ・トゥデイ」の4台が連なる形でトップ集団を形成。

そこから30秒ほど遅れ、6位争いの第2集団をNo.22「CRAZYZY today - 」とNo.100「HACもらいものビート」の2台で争う。ここまで多くのチームが僅差で争う光景は、選抜戦ならではのところか。



中盤

レース開始から3時間。第4戦までであればチェッカーとなる時間が経過しても、今回のレースではまだ折り返し地点。

さすがに3時間が経過するとともに、リタイヤで戦列を離れるマシンも目立ち始めたが、このKNCクラスは全車ともノントラブルで順調に周回を重ね引き続き僅差の展開を繰り返す。

3時間経過時点でのトップはNo.36「JKレーシング ユーロトゥデイ」で117周をラップ。ピット回数の差もあるため一概に比較はできないが、この時点では頭一つリード。

続く2位にはNo.38「デモリッション・エグゼ・トゥデイ」が114周で追いかける。

ここからが僅差で、3位のNo.10「ぼんこつRTトゥデイ」は113周、4位と5位の

No.127「ミドリネコマルトゥデイ」、No.48「SHINWAサトー建材BEAT」は共に112周。

6位のNo.22「CRAZYZY today - 」は109周、7位のNo.100「HACもらいものビート」は105周とやや周回が空くが、この日は6時間の長丁場。まだまだ最終結果はわからない。



終盤

5時間が経過しても引き続き僅差の争いを繰り返すこのクラス。この時点でのトップはNo.10「ぼんこつRTトゥデイ」で216周をラップ。

続く2位と3位は214週のNo.38「デモリッション・エグゼ・トゥデイ」とNo.127「ミドリネコマルトゥデイ」が続く。

4位のNo.48「SHINWAサトー建材BEAT」も213周、5位のNo.36「JKレーシング ユーロトゥデイ」も212周とまだまだ優勝圏内に付ける。

6位はNo.22「CRAZYZY today - 」だが209周と少し水を開けられる。7位のNo.100「HACもらいものビート」は183周と遅れてしまう。

しかしレース残り30分となった時点で、No.10「ぼんこつRTトゥデイ」がマシンを破損してピットイン。車両修復のために大きくロスしてしまうことに…。



最終結果

終始僅差の争いを見せたKNCクラス。トップでチェッカーを受けたのはポールスタートのNo.127「ミドリネコマルトゥデイ」であった。251周をラップし、開幕戦以来の優勝となった。

2位には序盤にトップを走行していた No.36「JKレーシング ユーロトゥデイ」が入り249周を走りきった。
 3位と4位は何と同一ラップの248周。この争いを制したのはNo.38「デモリッション・エグゼ・トゥデイ」で、No.48「SHINWAサトー建材BEAT」は悔しい4位となった。
 続く5位はNo.22「CRAZZY today - 」。終盤に猛然と追いつけて246周を走りきった。
 途中までトップ争いを繰り広げていた No.10「ぼんこつRTトゥデイ」は終盤のマシントラブルが響き、234周の6位となった。
 以下7位にNo.100「HACもらいものビート」が216周で入り、このクラスは全車完走となった。



シリーズ結果

第4戦終了時に、シリーズ2位に13点の差を付けて断トツのトップだったNo.10「ぼんこつRTトゥデイ」であるが、今回は6位で6ポイントに留まった。
 またシリーズ2位に付けていたNo.36「JKレーシング ユーロトゥデイ」が今回15ポイントを獲得し一気にポイントアップしたが、あと一歩届かず。
 最終的にシリーズ1位に66点のNo.10「ぼんこつRTトゥデイ」、2位に62点のNo.36「JKレーシング ユーロトゥデイ」という順に落ち着いた。
 シリーズ3位は54点のNo.38「デモリッション・エグゼ・トゥデイ」、4位は46点のNo.48「SHINWAサトー建材BEAT」、5位は40点のNo.127「ミドリネコマルトゥデイ」と、レースさながらの接戦となった。
 参加台数が多いうえに各チームの差が非常に接近しているKTCクラス。来年も多くのチームが見ごたえのある僅差の戦いを見せてくれることだろう。



KNC クラス シリーズ'優勝



KNC クラス シリーズ'2位



KNC クラス シリーズ'4位



KNC クラス シリーズ'3位

KNOクラス(軽NAのオープンクラス)

第2戦からの出場ながら3連勝中のNo.126「アンティスネコマルトゥデイ」が、シリーズポイントでは2位に15点の差を付けて圧倒的優位に立っている。今回4連勝で有終の美を飾るのか、もしくはシリーズ2位のNo.223「パーマン ニゴオ トゥデイ」の逆転劇を見られるのか。

またシリーズ3位争いではNo.211「白須賀会トゥデイ」と、No.296「小山輪業トゥデイ」が、2ポイント差で争っておりこちらも目が離せない。そこに宮崎県からはるばる初エントリーのNo.252「黒木さん家のトゥデイ」が加わり、全5台での争いとなった。

予選

予選1位となったのは、何と宮崎県から初参加のNo.252「黒木さん家のトゥデイ」。予選タイム1'08.871の驚異的なタイムをたたき出し、普通車も交えた総合順位でも2番手のポジションを獲得した。

予選2位となったのはNo.126「アンティスネコマルトゥデイ」だが、こちらも毎度のことながら圧倒的なタイムを記録。1'02.165は1位から遅れることわずか0.3秒。

予選3番手はNo.223「パーマン ニゴオ トゥデイ」で、タイムは1'04.955。2位とは2秒強の差となるが、回りの軽のターボ勢と比較すると十分に速いタイムである。

以下4位にNo.296「小山輪業トゥデイ」、5位にNo.211「白須賀会トゥデイ」と続く。

序盤

レース序盤、No.252「黒木さん家のトゥデイ」がトップを走るものの、No.126「アンティスネコマルトゥデイ」も何とか食い下がり、1時間を経過した時点ではわずか1秒の差という接近戦。

また、3位争いをNo.296「小山輪業トゥデイ」とNo.223「パーマン ニゴオ トゥデイ」の2台で繰り広げていたものの、1時間を経過したところでNo.223「パーマン ニゴオ トゥデイ」が白煙を吹きペースダウン。No.211「白須賀会トゥデイ」との4位争いになったかと思いきや、間もなくエンジントラブルによりリタイヤとなってしまう。

中盤

序盤こそ上位2台の接近戦となっていたが、No.252「黒木さん家のトゥデイ」がじわじわと後ろを引き離していく。3時間を経過した時点でNo.252「黒木さん家のトゥデイ」は130周をラップして、総合でも1位のポジションとなり、2位のNo.126「アンティスネコマルトゥデイ」と約5周の差を付ける。

また3位を走っていたNo.296「小山輪業トゥデイ」は、4位のNo.211「白須賀会トゥデイ」に対して5周ほどのマージンを築いていたが、2時間半を経過したところでスロー走行に…。ピットイン後そのままリタイヤとなり、このクラスは中盤にして早くも2台が戦列を去ることに。

終盤

レースは終盤になってもNo.252「黒木さん家のトゥデイ」は全くペースが衰えず、完全な独走状態となる。

5時間経過時点で240周をラップし、No.126「アンティ



スネコマルトゥデイ」に 11 週の差を付け、総合順位でもトップをひた走る。

3位のNo.211「白須賀会トゥデイ」は198周と少し差が付くものの、このまま完走すれば3位のポイントが入ってくるため、無理をする必要はない。

最終結果

終始トップを走った No.252「黒木さん家のトゥデイ」。最後まで手を緩めることなく、272 週の総合トップでのフィニッシュとなった。このチームはオートポリスを始め、各地の耐久でトップを走る活躍をしており、あらためて全国レベルの高さを知らしめることとなった。

2 位には終盤に追い上げを見せた No.126「アンティスネコマルトゥデイ」が 266 週の記録でゴールした。

3 位となったのは No.211「白須賀会トゥデイ」。233 周を走りきり、貴重な 12 ポイントをGETした。

シリーズ結果

シリーズ優勝はNo.126「アンティスネコマルトゥデイ」。3回の優勝と今回の2位獲得で、断トツの75ポイントでのシリーズ優勝を飾った。

シリーズ2位には、今回はリタイヤながら毎回安定した速さを見せた No.223「パーマン ニゴオ トゥデイ」が45ポイントで入った。

また今回12ポイントを獲得した No.211「白須賀会トゥデイ」は、合計ポイントが44点で、あと一步届かずの3位となった。

第3戦、第4戦と続けて2位を獲得していた No.296「小山輪業トゥデイ」は、今回のリタイヤでポイントが伸びず、シリーズ4位にとどまった。



KTCクラス(軽ターボのクローズドクラス)

KTCクラスは第4戦終了時点のシリーズ上位3位までに、シリーズ優勝の可能性が残る。この選抜戦にはその3チームである、No.78「ガレージ尻屋チャレンジアルト」、No.14「ガレージシヤマ・アルトバン」、No.210「ZEST MSC豊橋 アルト」がエントリーし、シリーズの行方を争うことに。残り2枠には、No.121「ZEST ルプロス セルボ」と、No.88「遠州商会&花りん号 ミラ」がエントリーとなった。

予選

予選1番時計を叩き出したのは、No.78「ガレージ尻屋チャレンジアルト」で、タイムは1'05.474をマーク。それをわずか0.13秒差でNo.14「ガレージシヤマ・アルトバン」が追い掛ける。

また3位のNo.210「ZEST MSC豊橋 アルト」も1'06.144と上位2台を視界に捉える位置に。

以下4位にNo.121「ZEST ルプロス セルボ」、5位にNo.88「遠州商会&花りん号 ミラ」と続く。



序盤

レース序盤は予想通り上位 3 台が接近戦を繰り広げる。30 分経過時点では、何と No.78「ガレージ尻屋チャレンジアルト」、No.210「ZEST MSC 豊橋 アルト」、No.14「ガレージイシヤマ・アルトバン」の 3 台が連なって走行する状態に。まさに意地のぶつかりあいといったところか。

しかし 1 時間半を経過し、セカンドドライバーがドライブする頃になると、1 位の No.78「ガレージ尻屋チャレンジアルト」が頭一つリード。2 位 No.210「ZEST MSC 豊橋 アルト」と、3 位 No.14「ガレージイシヤマ・アルトバン」は 1Lap の遅れを取る。

また、4 位の No.121「ZEST ルブロス セルボ」は 3 位から 1 周遅れに付け、上位陣に食い下がる。

5 位の No.88「遠州商会 & 花りん号 ミラ」もさらに 1 周遅れのポジションと、まだまだ上位を狙える位置に付けていたが、レースが 2 時間を経過したところで白煙が激しくなりピットイン。そのまま無念のリタイアとなってしまった。

中盤

レース 3 時間を経過したところでのトップは、依然 No.78「ガレージ尻屋チャレンジアルト」で、116 周をラップする。続く 2 位は No.210「ZEST MSC 豊橋 アルト」で、トップから遅れることわずか 2 週の 114 周をラップ。また 3 位の No.14「ガレージイシヤマ・アルトバン」は 113 周、4 位の No.121「ZEST ルブロス セルボ」は 111 周と、何とかトップに食い下がる。

終盤

5 時間経過時点では、記録上は 1 位 No.78「ガレージ尻屋チャレンジアルト」と No.210「ZEST MSC 豊橋 アルト」が 222 週の同一ラップで並ぶ。しかしピットイン回数の違いがあるため、実質は No.78「ガレージ尻屋チャレンジアルト」が 3 周ほどのアドバンテージを持っている。

3 位の No.14「ガレージイシヤマ・アルトバン」も 219 周と健闘するが、残り 1 時間となりトップを狙うことは難しくなってくる。

4 位の No.121「ZEST ルブロス セルボ」は 214 周で、こちらも 3 位とは少し水を開けられる。

最終結果

このクラス、トップでチェッカーを受けたのは、レースを終始リードし続けた No.78「ガレージ尻屋チャレンジアルト」で、260Lap を記録した。

続く 2 位には 256 周を走りきった No.210「ZEST MSC 豊橋 アルト」が入った。

3 位は No.14「ガレージイシヤマ・アルトバン」。終始トップグループを捉え続けたが、2 位には 2 周届かなかった。

また 4 位には 247 周で No.121「ZEST ルブロス セルボ」が入った。



シリーズ結果

No.78「ガレージ風屋チャレンジアルト」が今回を含めて通算3勝を上げ、2位に14点の差を付けてシリーズ優勝を手中にした。

シリーズ2位に入ったのはNo.14「ガレージイシヤマ・アルトバン」。このクラスで唯一、毎戦表彰台に上がる安定ぶり、見事に2位を勝ち取った。

シリーズ3位となったのはNo.210「ZEST MSC豊橋 アルト」。最終戦で追い上げを見せたが、2位にはあと6ポイント届かなかった。また4位には、3位と同門チームのNo.121「ZEST ルブロス セルボ」が入った。



KTOクラス(軽ターボのオープンクラス)

KTOクラスはシリーズ上位3台の得点差が最も接近している最激戦区。第4戦終了時点でシリーズ上位1位のNo.1「DXLメビウスセルボモード」の63点を筆頭に、2位No.59「ナルミファクトリーアルト」が62点、3位No.8「チームグローバルカプチーノ」59点と、最終戦で優勝したチームが、シリーズ優勝を勝ち取れる状況。

しかし2位のNo.59「ナルミファクトリーアルト」はチーム事情により今回欠席となり、残る2チームによる一騎打ちとなった。

またシリーズ4位に付けていたNo.42「Legendカプチーノ」も今回の結果次第では、シリーズ3位に浮上する可能性が残っている。



予選

予選1位となったのはNo.1「DXLメビウスセルボモード」で、1'03.965と、初の3秒台となる好タイムをマークする。

2位はNo.8「チームグローバルカプチーノ」でタイムは1'05.533。1位を視野に捉える位置に付ける。

3位はNo.42「Legendカプチーノ」。上位2台にどこまで付いて行けるか。



序盤

スタート直後からNo.1「DXLメビウスセルボモード」が快調なペースで飛ばしてトップをキープする。しかし30分を経過したところで他車と接触しラジエターを破損してしまい、ピットインしたまま復帰出来ない状態となってしまう。

この間にNo.8「チームグローバルカプチーノ」は安定したラップを刻みながら、確実に周回数を伸ばし、1時間を経過した時点での周回数は35周をマーク。

またNo.42「Legendカプチーノ」は27周で2番手に付ける。

中盤

3 時間が経過した時点では No.8「チームグローバルカプチーノ」が 118 周でトップに付ける。118 周は総合でも 6 番手になる好ポジション。

2 位は No.42「Legendカプチーノ」で 104 周をラップ。トップから少し差があるが 6 時間の長丁場だけにまだまだわからない。

一方マシントラブルでピット待機を余儀なくされた No.1「DXLメビウスセルボモード」であったが、2 時間過ぎよりレースに復帰。ラップ数は 54 周で、最終的に完走認定が受けられるかどうか微妙な周回数ではあるが完走を目指してひた走る。



終盤

5 時間経過時点でのトップはなおも No.8「チームグローバルカプチーノ」で 221 周をラップ。2 番手の No.42「Legendカプチーノ」は 206 周であるが、3 時間時点から見るとほとんど離されてはいない健闘ぶり。しかし、残り 1 時間で 15 周の差は、堅実な走りが身上の No.8「チームグローバルカプチーノ」にとっては、十分なマージンか。

3 位は No.1「DXLメビウスセルボモード」で、序盤のピットストップ以降は順調に周回を重ね、150 周までラップ数を伸ばす。



最終結果

KTOクラスの 1 位となったのは、No.8「チームグローバルカプチーノ」。堅実な走りで 255 周を走りきった。

2 位は No.42「Legendカプチーノ」で 240 周をラップ。中盤以降は 1 位からの周回差がほとんど変わらない展開であったが、序盤の差が響いて 2 位となった。

3 位は序盤にアクシデントに見舞われた No.1「DXLメビウスセルボモード」。このクラスの規定周回数(完走扱いとなる周回数)179 周をぎりぎりクリアする 185 周を走りきり、3 位の順位を認定された。

シリーズ結果

冒頭にも述べた通り、前戦終了時点での上位 3 チームのうち、今回優勝を決めたチームがシリーズ優勝を手に出る状況の中、見事に有終の美を飾ったのは No.8「チームグローバルカプチーノ」であった。今回の 20 ポイントを加算して、トータル 79 点でシリーズ優勝を決めた。

惜しくも 2 位となったのは No.1「DXLメビウスセルボモード」。今回 12 点を獲得するも、トータル僅か 4 ポイントの差でシリーズ優勝には手が届かなかった。

シリーズ 3 位には今回欠席した No.59「ナルミファクトリー」チームが入った。



KWTクラス(軽ワゴン、トラッククラス)

このクラスは選抜戦の参加枠はわずか1台。唯一の全戦出場をしてきた、No.2「クリエイター山田印ワキアイ」がエントリーとなった。このクラスの参加は1台ながら、今回は特別ルールによりKWTクラスはピットイン時間を3分間短縮されるマイナスハンディー制。これによって他のクラスと総合順位を争えるチャンスが生まれた。

予選

予選タイムは1'14.667。30番グリッドからのスタートながらレースは6時間の長丁場。チェッカーが振られるまでは全くわからない。

決勝

序盤、快調なペースで周回を重ね、1時間経過時点では総合20位にまでポジションアップする。
しかし2時間を目前とした時点でピットインした後、そのままコースに復帰できない状況に…。
その後時間が経過するがコースには戻れない。チェッカーまであと15分となったところでようやくコースイン。
周回数は57周ながらチェッカーを受けてレースを終了となった。
このクラスは1台のエントリーであったため、57周でも1位が認定される形となった。

シリーズ結果

第4戦までで既にシリーズ優勝を決めていたNo.2「クリエイター山田印ワキアイ」であったが、今回の優勝で有終の美を飾った。



KWTクラス シリーズ優勝

